

令和元年度第2回市川町総合戦略会議（要旨）

会議名	第2回市川町総合戦略会議
開催日時	令和2年2月5日(水) 午前9時20分～午前11時50分
開催場所	市川町就業改善センター2階 研修室
出席者	委員：小野康裕、福田太志、小橋浩一、阪本浩之、村上和男、 北尾政憲、長尾克洋、楠田一利、村田敏朗、岩木和子、 木村重己、前田宣博、澤田克彦 町：藤原副町長、内藤企画政策課長、広畑地域振興課長、 藤後課長補佐
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 3 協議 （1）経過報告 （2）令和元年度事業の実施状況について （3）次期総合戦略にかかる事業の見直しについて 4 閉会
会議資料	【事前配布分】 総合戦略進捗管理シート（KPI用）、第2期市川町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業一覧、市川町総合戦略事業計画【R2-R7】、まちづくりアンケート報告書 【当日配布分】 会議次第、座席表、当日資料一式（市川町人口ビジョン（概要版）、人口・世帯数の推計（資料1～5）、市川町の次期総合戦略の特徴）
協議 事務局	3 協議 （1）経過報告 7/8 総合戦略会議でいただいた提案・課題等について、創生本部会議で協議 8/19、9/2 現総合戦略の事業を継続するか、廃止するか等について、創生本部会議で協議 9/12 創生本部会議から委ねられた事業の具体的な改善点について、庁舎内の推進チームのメンバーで協議 11/5～11/18 次期総合戦略で取り組む具体的な事業について、関係課とヒアリング、取りまとめ 12/19 町長、総務課長らに全事業について説明 12/26、1/14 創生本部会議において、具体的な事業について、説明・協議 1/26 現在の財政状況、今後の見込み等も踏まえ、町長、副町長、総務課長、財政担当らと協議 （2）令和元年度事業の実施状況について

資料の修正・付加

事業2 H31欄が空白→5件、事業4 漢字修正 収納→就農

令和元年度の実施状況については、まだ途中段階のものもあるが、事業見直しの時期でもあるので、事務局として全体的な実施状況、検証について説明。

◎人口減少の抑制、地域経済の活性化に有効であったと考えられるもの

・10、16 笠形オーガニックの取り組みと農業体験教室

→有機農業に取り組む地区として県内でも知名度が高まり、移住定住にもつながっている。また農業体験教室やイベントを開催することで、交流人口、関係人口の確保という面でも効果を上げている。

・18 空き家等の利用促進

→移住定住の促進、空き家の解消のためにも有効な施策である。H31欄6人とあるが、転入が6件で9人、町内の転居を含めると10件18人となる。ただ、空き家改修に対する県補助が、耐震対策を必須とすることになり、ハードルが高くなったことから、空き家改修にかかる助成金の申請件数は、今年度はゼロの見込み。また、市川町では住居としての活用が多く、空き家を活用して事業をされる方が少なかったため、そういう活用方法も含めて今後要綱の見直しが必要だと考えている。

・24 若者への住宅取得奨励金

→奨励金を受けた方を対象にしたアンケートでは、95%の方が、子育て世代の定住促進につながる、少しはつながると回答されていた。

・27 遊具の整備、29 こども園の新設

→子育て世代への影響は大きかった。5年前の住民アンケートでは、子どもが遊べる遊具のある公園がほしい、という意見が多かったが、9月に実施した住民アンケートでは、遊具がほしいという意見はほとんど見られなかった。

◎効果は見えにくいけれども継続していくべきもの

・5 創業支援事業

→今年度の実績見込みは0件。これまで取り組みのなかった分野において、セミナー等の開催も含め、起業創業をする人の支援を行うことで、新規に事業に取り組む人・事業所があった。要綱等の見直しもしながら、来年度以降も継続する。

・11 6次産業化

→これまで、一般販売やふるさと納税につながるような製品化まではできていないが、そういうことにつながるような6次産業化を目指していく必要がある。

・17 住宅用地の分譲

→千原と東川辺の2ヶ所を町の方で宅地造成、分譲。2ヶ所合わせて14区画あるが、今のところ8区画が残っている。これについては、完売に向けて今後も取り組んでいく必要がある。

◎計画通りに取り組めなかったもの

<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9 貸し農地事業 <ul style="list-style-type: none"> →町としては特に取り組みは行っていない。次期戦略において、取り組む検討はしたが、県のHPにある貸し農地の申請が2件にとどまることから、整備しても需要が見込めないということで実施を断念 ・31 病後児保育の推進 <ul style="list-style-type: none"> →関係市町や病院との調整に時間を要したため、総合戦略の期間内には開園できなかったが、令和3年1月には開園する見込み。 ・40 住宅リフォームへの支援 <ul style="list-style-type: none"> →バリアフリー改修工事を伴う住宅リフォームへの支援については、制度は確立したが、所得要件やその他の条件が厳しく、1件しか申請がなかった。もう少し利用しやすい制度になるよう、今年度に要綱を見直し、来年度以降の状況を見ていく予定。 <p>◎人口がどうなっているか。</p> <p>人口・世帯数の推計（資料1～5）を用いて説明。2015年国勢調査の結果を前回の推計人口に反映させると、2060年人口が88人少なくなる。2020年国勢調査の結果を注視していきたい。</p> <p>ただ資料4においても、1年ごとの人口を見ていくと、年々減少している。資料5→出生・死亡の自然増減、転入・転出の社会増減とも、減少のほうを上回っている。転出が最も多い世代が20代後半、続いて20代前半、30代前半。転入の多い世代は、日本人のみでは30代前半、20代後半、0歳から4歳、の順。ただ外国人を含めると、20代前半が最も多くなる。</p> <p>特にH30の出生数が大きく減少。今年度もH30に近い出生数になると見込まれるが、なぜこの年度から大きく出生が減ったのか、はっきりした原因は分からない。ちょうど出産も多いと思われる20代後半の転出が多くなっていることも、出生数が減少した1つの要因ではないかと推測される。</p> <p>5年間、総合戦略に取り組んできたが、死亡の数が出生の数を大きく上回り、転出が転入を上回るという状況は続いており、人口減少の抑制は難しい状況にある。</p> <p>笠形オーガニックの取り組みについて、私もこれまで関わってきており、いろいろ課題も抱えている。移住ということで新規就農は活発になってきているが、笠形オーガニックの当初の取り組みは、仮想の学校を作って農業体験をしてもらって、その体験をした人たちに移住してきてもらうというのを目指していた。現実には、体験をした方が移住してこられているわけではなく、有機農業の先駆者である牛尾さんを頼られて、移住してこられている。笠形オーガニックは、地域おこし協力隊の久林さんが、作付けの計画を立てたり、地元の協力を得たりしながらやっておられる。次期総合戦略を見ると、補助金の額は減らしながらも継続して予算措置していただけているようになっているが、それに頼らざるを得ないところも課題である。自走ができるように持っていきたい。町のほうにお願いしたいのは、新規就農に興味のある方が、時々上牛尾の方に来られているが、空き家はあるが活用できないという状況。高齢者の一人暮らしが多いので、長期的には</p>
-----------	--

委員長	<p>おのずと空き家になっていくと思われるが、最近笠形オーガニックでアンケートを取ると、空き家として活用してもよい、というところが120件あまりのうち4件となっていた。そういう活用を後押ししていただけるような施策を講じていただけるよう次期総合戦略でも検討してほしい。</p>
副町長	<p>但陽さんはいろんなことをしていただいているが、私の知る範囲で言うと、大阪の南海電鉄沿線の人口が厳しいことから、南海電鉄が沿線の中小企業の後継者育成にお金を出して、セミナーどんどんしておられ、それが定員オーバーするくらい人気が出てレベルの高いことをされている。市川町の産業をどうするのか、ゴルフだけでいいのか、農業も産業に入れるのか、但陽、行政、商工会、ある程度の企業など足並みをそろえてやっていけるようなことを、但陽さんはいろいろ情報もお持ちなので考えていく必要があるのではないか。先ほど子育てに関しても広域で取り組もうとしていて時間がかかるという話があったように、空き家問題は神河町でも福崎町でも起きていることなので、広域で考えていく必要があるのではないか。</p>
副委員長	<p>空き家対策については、広域で、という取り組みには至っていない。空き家対策の1つとして、農地とセットで、という取り組みを一昨年からしているが、それほど引き合いがないと聞いている。笠形オーガニックとの関連では、上牛尾では空き家はあるが所有者の事情により活用できないという状況であるが、上牛尾ではこれまでかなりの数の空き家が活用されている。上牛尾に限らず、町内全体に広げて考えていく必要がある。オーガニックについても、久林さんが地域おこし協力隊としての任期をもう少しで終わられる。引き続き地域おこし協力隊を募集していく方針でいる。町としても笠形オーガニックは是非とも成功させていかなければならないと考えている。</p>
企画政策課長	<p>どこの地区でも空き家は増えており、対策はしておられる。リフォームなしですぐに入れる空き家があれば、町外からも呼び込めるのではないかなと思う。</p>
副委員長	<p>空き家バンクの方でも、ゼロ円というのを出ている。ただ、リフォームなしでは住めない。それを行政が手を加えてリフォームして住める状態にして提供する、ということもあるが、そこまでは現状では手を出していない。売られる方に対して、買われる方に対して、リフォームにかかった費用の助成をしており、それについては戦略にも入れている。</p>
副町長	<p>現状売りたくないしなんとか管理したいという家が多々ある。リフォームしなくても使える家はたくさんある。ただ継承者がいないだけで空き家になっているところが多々あると思うので、そういうところを調査してもらって、できることなら多くの人に入ってきてもらって、人口を増やしてもらいたい。</p>
委員	<p>この戦略とは直接関係はないが、危険な空き家については取り壊しを所有者に促していき、また行政代執行をするなどして、危険空き家の除去も考えているところである。</p> <p>アンケートの中でも空き家のことがあったが、空き家の持ち主の確認を</p>

	<p>どれだけ取れているのか。</p> <p>あと、牛尾さんと話すときに、下牛尾で空き家がないか？という話をされたこともある。地元の人と話をすると、近くに空き家はあるがどんな人が入ってくるのかが気になる、と言われる。田畑も耕して住んでいただけたらいいが、イノシシやシカがよく来るところは耕作放棄地になってしまう。秋祭りの前などは、誰もいらっしゃらないとか、親戚の方も高齢で管理できないなどの空き家周辺の草刈りを、地域の人がボランティアでしている。たくさんあるので、町として危険な空き家を確認されているのかお聞きしたい。</p>
企画政策課長	<p>担当課では、危険空き家として指定したものではないが、危険と思われる空き家は30件ほどと聞いている。危険なものは早く除去しなければならないが、それについては次期戦略に入れているので後ほど説明する。</p>
副町長	<p>空き家の所有者が分からないというのは、当町においてはほとんどないと思う。そのため危険空き家については所有者に解体を促していける。先ほど岩木さんが言われたように、地域の方としては、あの空き家にどんな人が入られるのだろう、というのは気になるところだと思う。空き家バンクに関しては地域事情、地域の約束事もHPには掲載している。ただ、空き家バンクに登録していない空き家に初めての人が入ってこられたときに、近所の人としてはどういう人なのか心配もあるかと思う。地域の中でも考えていただく必要はあると思うが、町としても今後そういう心配を取りのぞいて空き家を活用できるようにしていかなければならない。</p>
委員	<p>外から来られる方がどういう人か、地域住民、区長などに行政が伝えるべき。例えばこういう動物を飼いたいなど、地元の説明すべきことは説明して、話に入ってもらい体制を作るべきではないか。</p>
企画政策課長	<p>今の空き家バンクでは、売る側と買う側をマッチングさせ、宅建協会に不動産業者を紹介していただく、というだけになっている。売る側、買う側、不動産業者の三者だけで話を進めていくことになるので、こういう問題が出てきているのだと思う。地域の方に入っていただく必要はあると思う。</p>
委員長	<p>この問題は非常に深刻な問題。5年前はここまで議論は出なかったが、5年経過するとこういう議論も出てくる。またさらに5年経つと、さらにひどい状況になるかもしれない。5年後には、誰でもいいから住んでもらいたい、という状況になる可能性もある。現状の対策でいいのか、地域ごとにこういうことを議論していただく場がないのかなと思う。例えば、瀬加であればこういうことを空き家対策としてやっていきたい、甘地であればこういう形で、というような議論も必要なのかなと思う。将来ビジョンがない中で1つ1つ対応していくと、住民とのトラブルになったり、摩擦が大きくなったりするかもしれない。神戸の商店街のシャッター街はもっとひどい状況。まだこの辺りは地域コミュニティが成り立っているのも、まだまだ取り組みの可能性はあると思っている。将来的なビジョンが必要だと思うが、県としてそういうものはお持ちか。</p>

委員	<p>県としても従来から空き家対策を進めているが、神戸のシャッター街と但馬の田舎の方と、状況が違う中でどう進めていくか。いろんな施策や補助金を用意しているが、どう地域が活用していくか、活用のされ方が違う。空き家対策については、個人の資産に行政がどれだけ手を入れるのか、ということになるが、山間地になると家だけではなく、田畑や山などもついてくる。農地や山林の管理ができないから帰ってこない、ということになると、農地と家を切り分けて相続放棄をしてもらうのか、家も相続する中で管理してもらうのか、個人の資産にどうアプローチしていくのか非常に難しい。逆にそこを解決しないと、但馬などでは、家も農地もほったらかしになり、町の方も誰にハンコをもらえばいいのか分からなくなってくる。空き家だけではなく周りを含めた対策を考える中で、住宅施策ということだけではなく、農業なども含めて横断でどういうことをするか検討が必要ではないか。県も農林、まちづくり、事業承継も絡む場合もあるので商工などが集まって連携して取り組んでいる。これまでの縦割りでの対応ではなく、横と連携して考えていく必要があるのではないかと。</p>
委員長	<p>これは根深い問題。すぐに決まるものではなく、さらに広がっていく可能性がある。地域、区ごとにイメージを持っている必要があるのではないかと。でないと急に人が入ってきた際に前の方がよかったということになる。</p>
委員	<p>9の集落営農について、甘地地区で工事が進んでいる中で、講師を招いて役員の方も勉強する必要があるのではないかと。工事だけが進んでいるが、行政がもっと入り込んで、誰が担い手として入るのか、どうやって農地を守っていくのか、決めていかなければいけないのではないかと。</p>
副町長	<p>甘地の土地改良区については、担い手の方、営農組合の問題があり、高収益の野菜を栽培しなければならないなど、いくつかの条件があり理事長も頭を悩まされているところ。工事も早く進めなければならないし、その中で農業経営も計画していかなければならない。いろいろ課題が山積しているが、今後ともご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>今大規模の方も営農組合も高齢化が深刻で、存続が危ぶまれる営農組合もかなりあると思う。町全体として将来的にはどうなるのか、ということについて、認定農業者を集めて話し合うべきだと思うので、行政には是非考えてもらいたい。</p>
地域振興課長	<p>実際営農組合の高齢化は顕著に進んでいる。将来こうなるということを見せて、そのための対策を協議していく必要はあると思うので、次の地域振興課長に申し伝えておく。</p>
副町長	<p>我々の営農組合は法人化を目指すようなものではないが、後継の認定農業者と話ができていたのでまだ安心できる。そうした後継の担い手となる方を増やしていくことも必要ではないかと思う。</p>
委員長	<p>認定農業者、兼業農家、営農組合など分けて考える必要があるのではないかと思う。農業と一言に言っても幅広いので、産業として取り組んでいる農業は、農業と切り離して産業として考えるべきではないか。農業は、それぞれの家庭が兼業でされているものと捉える方が分かりやすい。</p>

委員	<p>住民アンケートを見ると、甘地駅、鶴居駅のことに触れられている方が多かった。安心安全な駅周辺の環境整備をしていただくために、駐在所を是非駅近くに持って行っていただきたい。</p>
委員長 企画政策課長	<p>それは計画には組み込む予定？</p> <p>ちょうど基本計画図を作っているところであるが、甘地駅であれば前の5差路の改修、そこをなんとかしたいということを経に相談したところ、駅周辺をどういうふうにしたいのかランドデザインを描いてから、ということを進めている。交番移設の要望も毎年している。ただ、今はまだ対応年数がきていないということと言われており、駅周辺の整備をするときには、防犯拠点として駅のほうに置きたいと考えている。</p>
委員	<p>アンケートの中で、甘地駅に車を停めるのに役場に連絡をしなければならず不便、という意見があるが、事前に電話をしなければならないのは大変。播但線に乗るためにはやはり車で駅まで来られると思うので、駐車場の整備は絶対必要である。もっと現実的に、使っていただくにはどうしたらいいか、考えていくべきである。</p>
企画政策課長	<p>昨年のアンケートでは、駐車場、駐輪場の確保という要望は多かった。今は電話予約しないと駐車できないが、17台のスペースが半分くらいはいつも埋まっており、利用されている方は多い。整備にあたっては、駐輪場・駐車場の確保、利用しやすいようにということを考えて、進めていきたい。</p>
副委員長	<p>鶴居駅について、鶴居駅の西側は大型バスが通れない道になっている。また、鶴居駅の南側に1つ踏切があり、北側に2つ踏切がある。それを1つでも閉鎖して、鶴居駅の南側を広くしてバスでも入れるような道路整備をしていく必要があるのではないかと。単に駅前を整備してもアクセスが悪いと何も発展しないと思うので、是非検討してもらいたい。</p>
副町長	<p>鶴居駅の南側の踏切を拡張して、ということになるが、道路の計画で作っていく必要があると思う。踏切までの道については拡張することが決まっているが、西側の道路計画は今のところない。鶴居の住民の方からもそういう声があがっているが、鶴居駅周辺の計画にそれも含めて考えるかどうかであるが、今のところ西側の道路計画はないので、東側にロータリーのように大型車が回れるスペースを確保していくことを考えている。</p>
委員長	<p>JRに関してはいろいろあるが、なかなかハードルが高い。</p> <p>今試験的にされている福崎駅から甘地駅、鶴居駅までのバスについて報告をお願いしたい。</p>
企画政策課長	<p>1月から3月までの社会実験で、福崎駅止まりの播但から乗り継げる10人乗りのバスを走らせているが、1日平均1.5人、多い時で7人となっている。最初のうちは浸透しておらずゼロの日もあったが、新聞に載ってから、また防災無線でも流して、徐々に周知できていると思う。ただ、これは福崎駅止まりの補完としてずっと続けるわけにはいかない。福崎駅止まりになっているが、その先へもこれだけの人が帰っているということをJRに要望していかなければならない。その基礎数値として把握したいと考えており、最終的には甘地駅までの延伸を要望していく。</p>

<p>委員長</p>	<p>3月のダイヤ改正で長谷駅に新たに1便止まるようになる。快速が普通になるので、必然的に止まるようになる。何が講じてそういうことになるのか分からないもので、長谷駅では利用促進のために町をあげていろんなイベントをされているので、それが功を奏したのかもしれない。実績を持っていかないとJRは全く話を聞いてくれない。サイクルトレインに関しても、1回目は渋々やっていたが、2回目からは実績ができたのでスムーズであった。相手の反応を見ながら、実績をしっかりと作っていくことが必要。町民に対しても、使ってもらわなければならないという訴え、目的がしっかりと伝わっていないのではないかと思うので、近隣に住む者の意識を変えていかなければならない。通学・通勤にとって播但線は絶対的に便利なものである。乗車率をどうあげていくか、県にもお願いして全体で宣伝していかなければならないし、我々の会もしなければならぬ。駅前が寂れることと乗車率とイコールのようなどころがある。通勤に便利、ということに住んでいただく大きな条件であると思うし、20年後、30年後をイメージして、十分に議論をしていただきたい。福崎駅が整備されたので、やはり住民としても気になると思う。観光も含めて駅舎の利用が絡んでくると思うが、観光協会の方で何か動きはないか。</p>
<p>委員</p>	<p>郡内の観光協会でレンタサイクルがあるのは市川町だけである。大阪、尼崎や加古川から来られて、レンタサイクルを利用される方もいる。福崎町の妖怪を見に行くにも、甘地駅で降りて行かれる方もある。そういう人のためにも、きれいな駅前でお迎えできたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>先月、駅前の看板が分かりにくい、と他町の方に言われた。行きたいところへのアクセスが分かりづらい。パンフレットもない。HPはあるが、それを見ない人もいる。アクセスをもっとはっきりされたらどうか、という話が出た。レンタサイクルも観光協会にはあるが駅にはないと思うので、看板の下にその情報を書くとか、バスもあることを書くとかしてアピールすべきではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>確かに、甘地駅を降りたところに、観光協会や役場がどこにあるのか、分かりやすい看板は必要だと思う。あと、甘地駅の自転車屋にもレンタサイクルがあるらしい。そことタイアップして考えていきたいと思っている。</p>
<p>委員長 企画政策課長</p>	<p>駅舎については今練っている段階というところか？ 駅舎については、駅としての機能は少ないスペースで足りているので、残りのスペースを活用して、観光にもう少し力を入れていきたいと考えている。またチャレンジショップなども取り入れて、駅前でのどのような需要があるのか検討していきたいが、JRにいきなりそこまで求めるのは難しい。トイレのことは大体OKをいただいているので、徐々に進めていきたいと思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>期成同盟会の要望会があるが、毎年同じ内容で形骸化している、ということもJRの方もおっしゃる。今後は、期成同盟会や我々民間と一緒にやって要望することも必要なのかなと思う。JRはかなり難しい。 福崎駅がコワーキングスペースを作っているが利用率は上がっていない</p>

<p>委員</p>	<p>い。その理由に駐車場のことがある。姫路駅周辺だと電車に来てコワーキングスペースを使うことも多いが、福崎駅だと車で来て有料の駐車場しかない。もし甘地駅でコワーキングスペースを作ると、駐車場を格安で貸すか無料にすると、福崎の利用客を呼び込めるかもしれない。思い切った施策が必要であると思うし、田舎の利点もそういうことかなと思う。</p> <p>子育てについてはいかがか。</p> <p>こども園の運動会が2回、0・1・2歳児と3・4・5歳児と年齢別にされたそうで、保護者から、働いているから子どもを預けているのに、運動会に2回行かなければならなかった、という苦情を聞いた。そのうち1回は平日にあったらしい。親たちは行事の比較もする。子ども・子育て会議でも言おうと思っているが、先生方に検証していただいて親に伝えていただきたい。りっぱなこども園ができて、地域の人たちは喜んでおられるし、教育委員会管轄になりオープンスクールがあるので、ひいおばあさんとかひいおじいさんとかも見に行きやすくなった、という喜びの声を聞いた。あとは、保育内容、教育内容を先生方に研修していただいて、細かい配慮もしていただくことが必要だと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>以前にも申し上げたが、市川町は何をキャッチフレーズにして進んでいるのか。5年後、10年後にどんな町を目指しているのか、いまだにはっきりしていないと思う。</p> <p>今の話でも、学校の都合で物事を進めるのではなく、子育て支援を全面的にするのであれば、子育て支援のための学校運営を考えてもらうよう先生方をお願いすれば、分かりやすい話だと思う。そのあたりがばらばらで一つになっていない。一番の問題はそこだと思う。</p> <p>子育て支援というのはよく言われるが、どこでもやっていること。これからは住むところによって行政サービスに大きく差が出る。そんな中で若い世代が住んでくれるのかどうか、行政サービスのいいところに当然いくと思う。これは止められない。神戸市がALTを増やして英語教育に力を入れていく、ということが神戸新聞に載っていたが、市川町の特長を次の戦略ではしっかりと出していくべきだと思う。キャッチフレーズが必要だと思う。1つ提案であるが、フィンランドがこういうキャッチフレーズを出している。</p> <p>「母親になる、あるいは子どもになる、一番の場所」</p> <p>ベビーカーを押していると公共交通が無料になるような国なので、子育て施策がしっかりしている、また山や湖が多く自然の中で思い切り遊べる、つまり子どもになれる、ということ为国としてキャッチフレーズで売り出している。市川町は何もない、とよく言われるが、こういうキャッチフレーズを出した町政をしていくとぶれない、そんな気がするがいかがか。是非次の5年間にはキャッチフレーズを考えてもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>どこ向けの計画として策定していくのか、今一度立ち返る必要があるのかなと思う。先ほどからここに住んでいるからこそ分かることを言っているが、ここで決まったことを外へ出していく出し方も考えてい</p>

企画政策課長	<p>く必要があると思う。例えば先ほどHPの話があったが、確かにHPは万能ではないし、新聞の万能ではない。皆さん自分に合わせて情報の取捨選択をされる。ここで議論して決めて、実施されて効果も出てきている、それをHPに載せるのであれば、スクロールして見ていくのではなく、要約したものをPDFで出してもいい。いろんな施策があるが、立ち上げ時期なのか、転換に入っているのか、見直しに入っているのか、全事業でなくてもタイムテーブル、事業の時による変化を可視化してはどうかと思う。</p> <p>市川町の課題を抽出して、こういう解決方法で取り組んでいる、ということ町の方とも共有できるプロセスを作っていないと、我々だけが分かっているという状況になるかと思う。</p> <p>発信方法は大切。この課題を行政だけで共有するのではなく、町民全体で共有して皆で取り組んでいく体制が大切だと思っている。</p>
委員	<p>先ほどから議論している内容や対策は住民のためのものであるので、しっかり内容を伝えるべきである。ここにあるように、地域のコミュニケーションは活発だということなので、自治会と行政との連携を充実させて、内容を反映させていくようなプロセスも大事だと思う。</p>
委員	<p>郵便局に来られるお客さんはほとんどが年配の方で、バスで買い物など行ける間がいいが、バス停も離れている、ということと言われる。鶴居や瀬加といった地区ごとに、町主体というのは難しいのかもしれないが店があればと思う。郵便局も減っており、オーナー制のところもある。鶴居駅が整備されるのであれば、そこに郵便局が入ったり、病院が入ったりして、1箇所に集めるようなことができればと思う。郵便局自体もここ数年は地方創生ということで、自治体と包括協定を締結したりして、利益抜きで残っていく方策を考えようとしているので、今後ともよろしく願いしたい。</p>
委員	<p>前々から言っているが、2時間で46項目を協議するのは無理。観光とか地域活性化の部門とかに分けたり、駅前整備については地域の人や区長を対象としたり、集中的に審議できるような形にしていくほうがいいのではないか。次の総合戦略からは細分化した審議を考えてはどうか、と思う。</p>
委員	<p>私も部会に分かれてもいいのかなと思う。4つの基本目標に、キャッチフレーズともとれる文言もあるので、脚色していつてはどうか。企業側として農業に関して言うと、私の勤める会社は福崎町にあるが、60歳定年でその後5年間は再雇用がある。私の年代が20名程度おり、3年以内に一気に20名ほどの退職者が出る。再雇用する場、働く場を作らなければならないということで、温泉の近くで農業をすることを考えている。このように企業が農業に参入することで地域の活性化にもつながるかなと思っている。昨年度はサツマイモ、今年度はブルーベリーに取り組んでいる。</p> <p>但陽さんの経営の勉強会に参加させてもらっていて、異業種の方という知り合いができたし、農業の方も来られている。朝来市で岩津ネギの後継者がいない、と悩まれていた。2年前に加西市に転入して農業されている方は、トマト農園をされている。その人が転入されるときには、加西</p>

	<p>市と地元の方にとっても手厚くしていただいて、住むところはもちろん、畑もいい場所をさがしてくれたらしい。転入してこられる方に対して手厚い措置をされていると思うが、今ならこういう特権がある、というような取り組みがあってもいいのではないかと思う。</p> <p>農業、文化、山城のウォーキングなどのイベントもあったが、スポーツも市川マラソンに加えて何か考えてほしい。地域の方だけでなく周辺から来ていただけるようなイベントを増やして、交流人口を増やすことも必要だと思う。</p>
委員	<p>我々議会の中でも総合戦略についていろいろ話をしている。議会として理事者側に対して、いろんな提言をしていきたいと思っている。</p>
委員	<p>昨年、小学校の校外学習で温泉に来ていただいて、温泉の説明、足湯体験をして、福崎町からもコミュニティバスを使われて交流を行った。市川町からはコミュニティバスを使って柳田國男記念館の方へ行かれた。瀬加に関しては2年生の校外学習だった。テレビで見たが、熊野古道では小学生がガイドをしていた。これは郷土愛につながると思う。ここに書いてあるように「ふるさと意識、郷土愛の醸成」ということでいろいろ取り組みをされているが、ガイドができるような子ども達を育てれば、仕事で姫路に行っても市川町に住んでくれるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>(3) 次期総合戦略にかかる事業の見直しについて</p>
委員	<p>事前配布資料に基づき、新規事業、変更のあった事業について説明</p>
企画政策課長	<p>情報PR機器整備とはどういうものか？</p> <p>企画政策課で担当する事業であり、町のPRやお知らせ情報を発信するために、デジタルサイネージやフォトフレームなどを整備する予定。</p>
委員	<p>この事業案を考えられるにあたり、関係団体とも協議されたのか？というのも、本日観光協会の会長と私、副会長と出席しているが、ゴルフアイアンの情報発信拠点観光交流センターのところにできる、ということは資料を見て初めて知った。いいことなのでかまわないのだがちょっとお聞きしたい。</p>
企画政策課長	<p>事務局としては担当課とのヒアリングで具体的な事業について協議をしてきており、担当課の方で当然関係団体との協議がなされているものと思っていた。ただ情報発信拠点整備については、ついこの間、1月下旬に場所がようやく決まったという経緯がある。</p>
委員長	<p>重点を置いている事業としてはどれがあげられるか。</p>
企画政策課長	<p>情報発信拠点整備と駅前整備があげられる。この2つが予算面でも大きなウエイトを占めるものであり、重点的に進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>今後の事業について提案いただいたが、現場の声を吸い上げるような機会が取れないかなと思う。地域と行政と利害が絡むこともあるし、そういうところにもう一人違う立場の方が入ることで調整していただけたらと思う。行政が考えていること、地域が考えていること、民間が考えていることを話し合える場が作れるといいなと思った。</p>

<p>委員</p>	<p>それぞれの団体であったり利害を持つ方に話を聞く、人口ビジョンを掲げて夢を持ってやっという意からすると、キャッチフレーズを持って言い続けていくことは必要だと思う。例えば福崎町は以前から柳田國男のことを言い続けていて、最近河童や妖怪のことを町長があいさつのたびに言われている。言い続けていると、神戸からでも見に行こうということになったりもする。とにかく言い続けていくこと、刷り込みというのは大事だと思う。</p> <p>県でもいろんな事業に取り組む中で、若者に留まってもらうためには若者の意見を聞かなければならない、ということで、日本遺産「銀の馬車道・鉾石の道」で高校生フォーラムを行い、高校生の観点から地域活性化について意見をもらった。そうするとバーチャルリアリティのような若者らしい意見が出る。また地域夢会議では、これまではビジョン委員など高齢の方が多かったが、今年はグループにも高校生を入れた。そうすると、高校生自身の意見はつたないものであったが、グループの中に高校生が入ることで、大人や高齢の方に頑張ろうというやる気が見えてきた。高校生にしても、大人たちが仕事以外の部分で地域のためにこんなに頑張ってくれている、ということがよく分かった、というように相乗効果が出て、今年は例年になく意義深いものとなった。どういう目標に向かって、ということであれば、誰を入れるかということもあるが、それぞれの意見を聞いて皆で作り上げている、関心がない、ではなく巻き込んでいく仕掛けをすると、自分たちで作った計画という意識が芽生え実施しやすいのではないかと思う。そのためにもキャッチフレーズがあればそれに向かってやりやすいと思う。計画は計画としているような事業が必要であるが、何かピンポイントでここに向かって、というのがあればいいと思うし、それを考える会を作るのも1つの方法かなと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>なるべく物事はオープンに、今後はなるべく若い方の意見を聞かなければいけない。</p>
<p>委員</p>	<p>2番の国産ゴルフアイアン発祥の地情報発信拠点の整備に関連して、商工会としても12年ほど前からゴルフアイアンのPRをしてきた。知事が言われている大阪から城崎までのゴールデンルートにおいて、市川町に拠点的なものが何もない。観光バスで来られて2時間ほど滞在してもらえような施設があればいいということで、商工会として拠点を整備してはどうか、と町に再三訴えてきた。施設においては、アイアンを展示するだけではなく12ほどある町内の製造業者のアイアンが試打できるようにすると、自分に合うものを見付けられる。</p> <p>また、甘地駅の空きスペースを活用してレンタサイクルの駐輪場や喫茶スペースを確保すると、自転車で文化センターの方に行くことができ、町の活性化にもつながると思う。こういう拠点を整備することで、電車やバスで多くの人々が来られて盛り上がっていくのではないかと。上野県会議員からも話があったので、業者に事業組合を作らないかという話をした。個人的にされている方が多く意見がまとまらなかったが、拠点ができれば協力</p>

委員	<p>はするということは言われている。</p> <p>約半世紀後には5千人から6千人の人口になると見込まれているが、今後は小さな町づくり、小さな町に見合ったやり方を進めるということが必要ではないか。</p>
委員長	<p>スマートシティということもよく言われている。そういう取り組みも必要となってくる。</p> <p>1つは議論の場、この戦略や人口ビジョンを住民にどう伝達していくかが難しい。今回事務局にお願いしたが、区切りのところで町民に対して発表する場も必要だと思う。聞きたくない意見も出て来るかもしれないが、私は必要ではないかと思う。そして今後に向けてどう軌道修正していくか、もちろん予算が優先する問題でもあるし、大事なことだと考えている。</p> <p>もう一つ、次の戦略で全く触れられておらず気になっているのが、学校教育が変わり、英語教育とプログラミング教育が入る。これに全く触れられていないのはどうなのか。</p>
企画政策課長	<p>プログラミングについては、国の方でも進めており、26番において令和5年度までに一人1台のタブレット端末の整備をする予定になっている。それに向けて教員に対する研修に取り組んでいるところ。</p> <p>英語教育に関してはふれていない。</p>
委員長	<p>プログラミングも英語もレベルの問題があると思うが、市川町がどのようなレベルの英語教育とプログラミング教育をしようとしているのか見えない。これが見えると若い人は寄ってくる。それが見えなかったら相手にもしない。これは、今後6年間においても、子育て事業においても、非常に大切である。町の方針としてこれらの教育レベルをどこまで持っていくのか、絶対に決めるべきだと思う。これは、お金も知恵も経験も必要なので、おそらく行政がするのは難しいと思う。民間にさせるべきだと思う。町が民間にお金を出して委託して、ということは難しいかもしれないので、商工会に迂回をさせて、プログラミング教育や英語の塾をしてもらおう。例えば学校の空き教室を使ってするような、そういう大胆な施策を取る必要があるのではないか。もしくは個人塾でもいいので、創業という形や新規部門という形で商工会から支援してもらおうことを予算組みの中でも考えてもらえないか。学校が終わってからそこへ行ってプログラミングや英語教育を受けられるような環境を、町として作っていくというのはいかがか。</p>
副町長	<p>英語教育、プログラミング教育については、教育委員会でも方針がはっきり決まっていないということで戦略には入れられなかったが、今後組み込むべきは組み込んでいき、していく必要はあるのではないかと思う。ただ指導者の問題は大きい。</p> <p>それとゴルフの拠点整備の関係であるが、このたび観光交流センターに増築するということで決まったが、これからの事業の取り組みについては、ゴールデンラインを活用して観光につなげていくことも含めて、この拠点施設を活用していかなければならないと考えているが、規模的にはそれほど大きなものではない。試打室も設け、ゴルフレッスンや、北播磨のゴル</p>

<p>委員長</p>	<p>フツーリズムとの連携も考えていきたいと思っている。</p> <p>英語教育、プログラミング教育については、教育委員会ではなく企画政策課ではないかと思う。市川町の体制や教育事務所の対応を待っているとはとてもじゃないが間に合わない。民間にどうやってしていただくか、我々も知恵を出していくし、商工会も知恵を持っているはずなので、そういったところから、教育は教育委員会というのではなくて、町の政策として使えることなので是非考えてもらえたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>5600人ほどになると書いてあるが、そういうことになる前に、合併ということも考えていかなければならないのではないかと？姫路市と1つになることを考えればいいと思うが。</p>
<p>副町長</p>	<p>合併については町が声をあげて、ということにはなりにくい。巷ではそういう話も聞くが、我々としてこういう方向で、ということは出せない。</p>
<p>委員</p>	<p>5千人とかになると、収入も半分ほどになるし、インフラ整備などできないのではないかと思う。将来的なことも考えていくべきではないか。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>合併ありきで考えていたら、人口ビジョン、総合戦略は立てられない。空き家はどうするのか、空き農地はどうするのか、若者は少なくなっていく、その中で40年後を見据えて何をするのか、ということ考えた計画となっている。</p>
<p>委員長</p>	<p>今後さらに大きな問題になってくるのが農地の荒廃。これは産業面で捉えるべきであり、市川町として集落営農を含めて農業を産業としてどの位置に置くのか、考えていかなければならない。儲からなかったら認定農業者は育たないので、どうやって儲かる農業にしていくのか。農業で儲かるのは大きく分けて2パターンあり、施設園芸を持っているか、回転率であげていくか、というところがキーワードになってくる。産業構造に農業も組み込んだ形で土地利用を考えないと、ばらばらになってしまって日当たりのよい水はけのよい農地が使えないということになってしまう。甘地のほ場整備を見ると、水がはけないようにほ場整備をしているが、そこで高収益野菜を作れという、そんな相反したこと、矛盾したことを要望しており、値段の高い野菜など絶対に採れない。そんな中で、全体的な産業構造として、農地を考えていかないといけないと思う。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>4 閉 会</p> <p>今週中にHPでパブリックコメントを開始。本日いただいた意見については、後日担当課を交えて協議を行い、来年度からの総合戦略を策定していく。できあがれば委員の方々にお送りする。</p>